

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	16-006	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The association between post-traumatic stress disorder and lifetime DSM-5 psychiatric disorders among veterans: Data from the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions-III (NESARC-III).</p> <p>退役軍人における心的外傷後ストレス障害と生涯に亘る DSM-5 精神疾患との関連 : The National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions-III (NESARC-III)より</p>		
執筆者		
Smith SM, Goldstein RB, Grant BF.		
掲載誌		
J Psychiatr Res. 2016 Nov;82:16-22. doi: 10.1016/j.jpsychires.2016.06.022.		
キーワード		PMID
心的外傷後ストレス障害、退役軍人、併存疾患、精神疾患、疫学		27455424
要 旨		
<p>目的： アメリカの退役軍人における DSM-5 (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fifth Edition) 心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の有病率および併存精神疾患との関連性を検討した。</p> <p>方法： The National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions-III (NESARC-III)に参加した 3,119 名 (18 歳以上) の退役軍人を対象に面接を行った。PTSD および併存精神疾患の評価は、Alcohol Use Disorder and Associated Disabilities Interview Schedule-DSM-5 Version (AUDADIS-5) を用いた構造化面接により行い、PTSD、気分障害、不安障害、人格障害、ニコチン使用障害、アルコール使用障害、薬物使用障害を診断した。多変量ロジスティック回帰分析により、PTSD と対象者特性、併存精神疾患および治療割合との関連を、オッズ比 (OR) および 95%信頼区間 (95%CI) にて算出した。</p> <p>結果： PTSD の割合は 6.9%であった。PTSD に関連した対象者特性は、女性、若年 (18-29 歳)、アメリカ先住民、未婚、低所得、トラウマ (2 個以上) であった。PTSD と有意な関連を示した併存精神疾患の OR (95%CI) は、人格障害 4.45 (2.28-8.70)、不安障害 3.48 (1.64-7.35)、気分障害 3.67 (1.23-10.91) であった。PTSD の治療割合は薬物使用障害との併存で有意に高値を示した (OR (95%CI)=2.43 (1.03-5.69))。</p> <p>結論： アメリカ退役軍人において、PTSD は精神疾患と有意に共存した。PTSD の治療割合を上げる要因が今後の検討課題である。</p>		